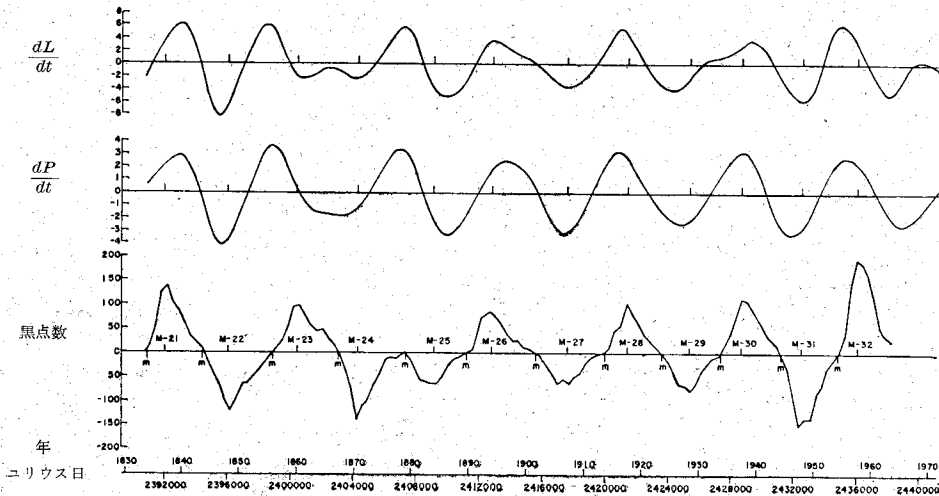


雑 報

**太陽運動と黒点** アメリカのホロマン空軍基地の宇宙空間研究所のジョーズ (Paul D. Jose) は、太陽の太陽系重心に対しての運動と、太陽黒点数との関係を探り、緊密な相関が存在することをみとめた。Lを太陽系重心に対する太陽重心の運動の角運動量、Pをその運動の曲率中心に対する角運動量とし、 $dL/dt$  と  $dP/dt$  を

17世紀の中頃から以後 2060年まで計算する(この計算の1部は天文月報 55巻 179頁(1962年)に田中済氏が発表している)。又太陽黒点数は、磁場の極性も考えて、一つおきにマイナス符号をつける。この三つの曲線は、下図にも示すとおり、実によい相関を示す。太陽運動は、大体木星と土星の会合周期の9倍、つまり178.77年でその様子がもとにもどるが、太陽黒点も178年前と比較すると、黒点数のカーブが実によく似ている。もっとも、太陽黒点数の観測は210年間くらいしかないの



で、重ねあわせられる期間は40年くらいのものであるが、一致はみごとである。もしこれが将来にもあてはまるならば1975年ごろから2005年くらいまでの間、太陽活動の最盛期でも黒点数は非常に小さいものになる筈である(A.J. 70, 193, 1965). (関口)

$\frac{dL}{dt}, \frac{dP}{dt}$  は (太陽質量) (AU)<sup>2</sup> / (40日)<sup>2</sup> を単位とした数に 10<sup>8</sup> をかけたもの

西村製の

30 cm 反射望遠鏡

下記へ納入して好評を博しております

- 米 ゴッダード・スペース・フライト・センター  
ハインド JR短期大学  
ムレ大学
- 英 オックスフォード大学
- スイス バーゼル大学



株式会社 西村製作所

京都市左京区吉田二本松町 27  
電話 (77) 1570, (69) 9589

30 cm 反射望遠鏡

ニュートン・カセグレン兼用